

インプラント補綴による機能・審美リカバリー

～固定性補綴装置？ 可撤性補綴装置？～



黒田 真司
顎・口腔インプラント科 教授

近年、多数歯欠損治療にインプラント補綴装置を選択することが増えています。これはインプラント体の生体親和性、強度、骨結合能力や操作性などの向上、中間構造・上部構造の材質の向上、そして CAD/CAM 技術によって補綴装置の設計幅が広がったことなどが、インプラント補綴の増加の要因の一つであります。一方で、不十分な診断からインプラント補綴治療の結果、機能・審美など QOL が獲得できないこともあります。インプラントを希望する患者においては、歯科医師—患者ともにインプラント補綴に連結冠やブリッジなど固定性補綴装置を第一選択する傾向があります。一方で、implant-supported overdenture (IOD) あるいは implant-assisted removable partial denture (IARPD) などの可撤性補綴装置は、人工歯配列位置および床形態において自由度が大きく、特に顎堤吸収が著しい場合にはアタッチメントによって強い維持・支持・把持が得られるため、審美や機能の向上が期待できます。今回は、著しい歯槽骨吸収や咬合困難の症例を供覧し、インプラント補綴装置による QOL のリカバリーを考察したいと思います。

【略 歴】

- 1995年 3月 東京医科歯科大学 歯学部歯学科 卒業
- 1999年 3月 東京医科歯科大学 大学院歯学研究科 顎顔面補綴学専攻 修了
- 2000年 4月 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 回復系診療科 助手
- 2001年 11月 Anatomy and Cell Biology, Rush University Medical Center, Chicago
～2003年 10月 (Post-Doctoral Research Fellow)
- 2007年 4月 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 インプラント・口腔再生医学分野 助教
- 2017年 2月 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 インプラント・口腔再生医学分野 講師
- 2022年 4月 北海道大学病院 高次口腔医療センター 口腔インプラント治療部門 副部長 准教授
- 2024年 4月 神奈川歯科大学 歯科インプラント学講座 口腔再生インプラント学分野 教授
(現在に至る)

*主な所属学会等

- 日本口腔インプラント学会 総務委員 学術委員 編集委員 代議員
- 日本顎顔面インプラント学会
- 日本再生医療学会 代議員
- 日本補綴歯科学会 代議員
- 国際口腔インプラント学会日本支部 理事